

# News Release

2016年9月14日

## 報道資料

### 経済産業省が推進する「次世代高度運転支援システム研究開発・実証プロジェクト」 の知見を用いた機能でドライブをサポート ～先進運転支援機能を搭載したマルチドライブアシストユニットの販売を開始～

パイオニアは、経済産業省の「次世代高度運転支援システム研究開発・実証プロジェクト」の知見を用いた先進運転支援機能を搭載したマルチドライブアシストユニット<sup>※1</sup>（以下、MA ユニット）の販売を、9月下旬より開始します。

同プロジェクトでは、さまざまなドライブシーンにおいて、早い段階から危険を予測してドライバーをサポートする高度な運転支援システムについての研究開発、実証を行っています。その取り組みにおいて、事故につながる危険性のある場所や状況を中心に「ドライバーの運転行動データ」の抽出を行っており、その中でも事故発生率の高い交差点右折時における運転行動に注目し、研究を進めています。

MA ユニットに搭載している「右折時つられ発進検知<sup>※2</sup>」は、同プロジェクトにおいて研究されている“右折時運転行動”や“有効な注意喚起音のタイミング”を参考にしており、当社が蓄積してきたプローブ情報の解析結果から生成した「ヒヤリハット地点データ<sup>※3</sup>」と当社独自の「画像認識技術」を組み合わせ実現しています。同一地点で常に同じ注意喚起を行う機能とは異なり、同一地点においても“前方車両の状態”や“自車の動き”まで考慮して注意喚起を行う予防安全領域の運転支援機能です。

具体的には、ルート誘導中に、『サイバーナビ』（2016年モデル）に収録されている「ヒヤリハット地点データ」の中の右折交差点（全国約7,600カ所）で停車した際、前方車両の発進を「画像認識技術」で検知してから一定の間を置かず自車が発進した場合に効果音で注意喚起を行い、車間距離の確保と周囲の安全確認を促します。

当社は、現在約8,000万台と推定される国内の登録車両や、新車に向けて、さまざまな安全運転支援機能を搭載した車載機器を開発、提供し、カーライフ全般の安心・安全と快適なドライブをサポートしていきます。

※1 MA ユニットは『サイバーナビ』（2016年モデル）との接続が必要です。

※2 一般財団法人 日本自動車研究所（JARI）において JARI-ARV を用いた危険場面再現による実証実験を行いました。

※3 車載機から収集した走行履歴データなどを分析し、ドライバーが急ブレーキを踏んだと思われる地点などを蓄積したデータ。

## ■マルチドライブアシストユニット「ND-MA1」：オープン価格

- MA ユニットの詳細はこちらをご覧ください。  
[http://pioneer.jp/carrozzeria/system\\_up/navi/nd-ma1/](http://pioneer.jp/carrozzeria/system_up/navi/nd-ma1/)
- サイバーナビ製品ページ  
<http://pioneer.jp/carrozzeria/carnavi/cybernavi/>

